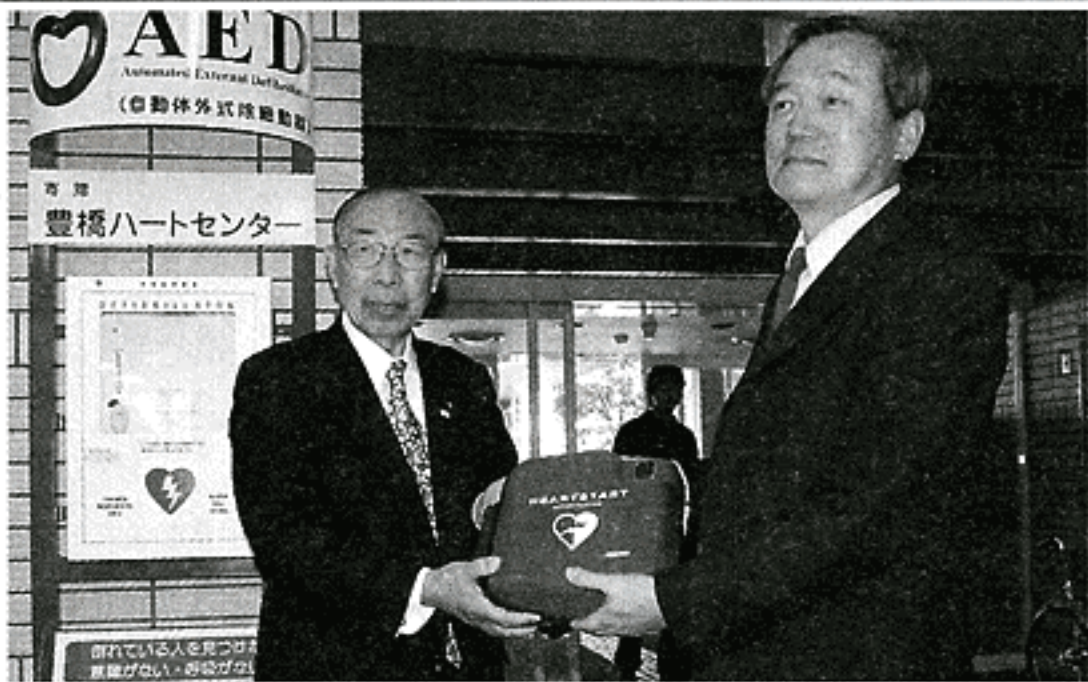


AEDを手にした白井市長(左)と鈴木院長(後方はAED一式台)



田原市にAED寄付

豊橋ハートセンター 市長感謝、普及を決意

医療法人澄心会豊橋ハートセンター(鈴木孝彦院長)は13日、田原市役所を訪れ、AED(自動体外式除動器)を3セット寄付した。白井孝市市長が鈴木院長へ感謝状を贈り、有効利用を約束された。

豊橋ハートセンターは、AEDは医療施設以外で、一般人が心停止で倒れた人の救命活動を行える、まさに「命を守る」道具。同市役所1階のほか、市の福祉センターと田原文化会館へ設置された。

現場で即初期の処置ができれば助かる命が多い事から鈴木院長が救命率向上のため、救急医療機器充実を目標に強い意思で自ら進めた寄付で、地域還元でもある。AEDは医師、救急救命士しか使えなかったが、04年7月の法改正で、誰もが扱えるようになり、急速に普及が進んでいる。

鈴木院長は「少しでも救命の役に立てばうれしい」と寄贈。白井市長は「日ごろ市消防本部が救急搬送病院としても大変お世話になっている。市民が多く集まる所へ設置するなど今後は市としても普及させ、使用訓練もさせていく」と感謝した。同市は職員全員が普通救命講習を受けているうえ、同本部がAED使用法指導を設置場所で開催するなど万全を期している。

救急車が現地へ到着するまでの時間は一般に約6分で、そこから処置しても病院へ着くころは手遅れのケースも多い。同センターは東三河へ計30個寄付を予定しており、中旬には豊橋市へも贈るといふ。